

地域医療連携広報誌

つながる医療

特集インタビュー

水野 進 医師
みずの すすむ

総合大雄会病院
口腔外科 診療部長

【主な資格】

- ・日本口腔外科学会専門医・指導医
- ・日本口腔科学会指導医
- ・日本顎関節学会暫定指導医
- ・日本顎顔面インプラント学会
暫定指導医
- ・歯科医師臨床研修指導歯科医
- ・歯学博士



一宮市は、医師会・歯科医師会・薬剤師会が連携し、治療にあたっております。

口腔外科 診療部長

水野 進

先生の携わっている診療について教えてください。

口腔がん、良性腫瘍、顎変形症、外傷、炎症、嚢胞、顎関節症などの疾患をかかりつけ医、かかりつけ歯科や当院の医師と連携して行っています。

親知らず等の基本的な手術や、その他外科的治療全般に携わっております。特に顎変形症（骨格性の顔面の変形や噛み合わせの異常）に対しての外科的治療に力を入れております。手術前に歯科矯正の専門医と連携して歯列を矯正した後、外科的な歯科矯正術（顎骨形成術）を行うことで、機能的にも審美的にも回復できるように努めています。

口腔外科のアピールポイントを教えてください。

当科は、常勤歯科医師5名、歯科研修医2名、歯科技工士1名、歯科衛生士8名、歯科助手1名、その他受付事務スタッフを含めると総勢25名のチームで診療にあたっております。（24年4月現在）一人では出来ないこともスタッフが丸となって取り組むことで、質の高い医療が提供できると思っております。また周術期における口腔機能管理や、骨粗鬆症医歯薬連携にも積極的に取り組んでおります。詳細は後術しますが、骨粗鬆症の方の歯科治療については、一宮市の三師会（医師会、歯科医師会、薬剤師会）と連携して診療を行っております。

顎変形症について教えてください。

「顎変形症」とは上あごや下あごが伸び過ぎていたり、あごが小さい、横に曲がっているなどが原因で、歯の噛み合わせがずれて顔や口もとが変形を起こしている病気です。痛みや話しにくさ等のさまざまな障害が生じ、また、容姿にコンプレックスを抱き長い間一人で悩んでいる方も少なくありません。現在では、このような方々に対して、歯科矯正治療と顎矯正手術を組み合わせることにより、安全に治療・改善することが可能になっています。顎変形症の治療は、多くの専門家の知識・技術を結集したチーム医療です。

顎変形症に対する手術には大きく分けて2つあります。上下顎の骨全体を手術で前後、上下、左右に移動させるやり方（骨切り術）と、歯を含む骨の一部だけを切って動かし、噛み合わせと容姿を正しく整えるやり方です。手術はどちらの方法であっても全身麻酔下で行い、移動させた骨はからだに悪影響のない材料でできたネジ・ワイヤー・プレートで固定します。あごの安静が図られるよう、顎間固定といって上下の噛み合わせを固定した状態で2～3週間固定します。患者さまにあった適切な方法で、顎顔面の持つ重要な機能の調和を目指して、患者さまとともに治療法を模索し、最良の結果が得られるよう努力しています。右に示したの患者さまは比較的顕著に改善が認められた症例です。

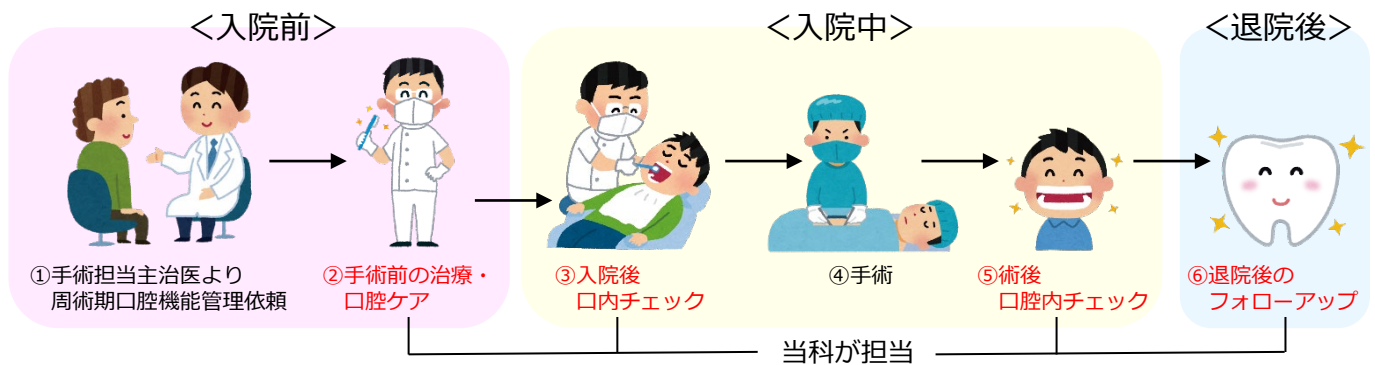


周術期口腔機能管理について教えてください。

周術期口腔機能管理とは、手術を担当する先生と当科が連携して、患者さまの口腔内を管理することで術後の誤嚥性肺炎、感染症を予防し治療の向上を目指すものです。

全身麻酔の手術では口から気管チューブを挿入します。口腔内には1mgの歯垢に1~2億以上という非常に多くの細菌があり、気管チューブを挿入することで口腔内の細菌を肺に押し込めてしまうため、肺炎や気管支炎といったリスクが生じます。また、動揺している歯がチューブなどに当たり、飲み込んでしまったり気管内に入ってしまう可能性があります。

このような術後合併症を防ぐためにも術前から手術を担当する先生と連携し、周術期口腔機能管理を実施しています。



骨粗鬆症の患者さまの歯科治療について教えてください。

「骨粗鬆症」とは骨が弱くなり、軽い転倒でも骨折してしまう病気です。

高齢の女性に発生することが多く、60代で5人に1人、70代で3人に1人、80代以降では2人に1人が発症すると言われていています。特に背骨や脚の付け根を骨折してしまうと、寝たきりとなるリスクが高まり、健康寿命を縮める原因にもなってしまいます。骨粗鬆症と診断されたら、骨折を防ぐための治療を始め、継続することが大切です。

口腔内への影響としては、歯周病や虫歯が悪化すると顎の骨にも炎症が広がってしまい、顎骨骨髄炎や顎骨壊死となることがあります。

骨粗鬆症治療を始めることになったら、まずは近くの歯科を受診し、歯の治療を済ませておきましょう。骨粗鬆症治療中も定期的に歯科を受診し、検査や医師の診察を受けましょう。

骨粗鬆症の治療薬は、ごく稀に骨の異常（顎骨壊死）が生じることがあり、治療にあたっては医科と歯科の連携は欠かせません。

一宮市は、医師会・歯科医師会・薬剤師会が連携し治療にあたっておりますので、安心して受診してください。



先生の事をもっと知りたい！

● 医師を志した理由を教えてください。

高校時代、まわりの友達は家業を継ぐ人が多かったので、大半の人はなんとなく大学を受験していました。私は実家が開業歯科であったということもあり、まずは歯科大学に進学してみようかと思い受験し、そのまま歯科医師となりました。もともとは「いつか」一国一城の主になりたかったのですが、いつの間にか年月が過ぎ、今もなお勤務医で頑張っております。

● 診察の際、大切にしている事を教えてください。

炎症所見・画像所見などに問題がなくても、患者さまが痛みを訴えている場合は、訴えを信じて対処していくことを心がけています。また、できる限り患者さまの声に耳を傾けるようにしています。

● なぜ口腔外科を専攻したのか教えてください。

技術的に他者を大きく頼ることをしなくてもでき、自分でしなくてはいけない事が多いのが口腔外科・歯科矯正・歯内治療です。その中から、外科に興味があったので口腔外科を選択しました。

● 休みの日の過ごし方を教えてください。

最近では、ふるさと納税でもらった自転車でサイクリングに出かけたり、庭に花を植えて育てたり、「おうち時間」を利用して、料理も積極的に作って楽しんでいます。ちなみに、お気に入りのメニューはツナと大葉とレモンのオリーブパスタです。興味のあることを見つけて、色々なことを楽しむようにしています。



詳しくは、地域医療連携室までお問い合わせください

